



# 東 侯 野 2月号

東侯野小学校 学校だより

令和6年1月31日

## 伝統を受け継いで

副校長 中山 純子

1月27日（土）の「凧あげ大会」には、ご多用の中たくさんの保護者、地域の皆さまにご参加いただき、ありがとうございました。今年度は、コロナが第5類に移行となり、久しぶりに土曜日に開催することができました。当日は、天候にも恵まれ、青い空に色とりどりの凧が舞いあがり、圧巻の光景でした。

学校創立以降、30年以上続いている「凧あげ大会」が今年度も行われたことは、大変素晴らしいことであり、また貴重なことであると思います。当日を迎えるまでに、「東侯野小凧の会」の皆さまには打ち合わせ会や試作会、学年ごとの凧づくりの作成など大変お世話になりました。また、凧あげ場所の水田やお手洗いをお貸し下さった方、当日子どもたちが安全に移動することができるように交通整理をしてくださったPTA 役員・委員の皆さま・・皆さまの力が一つになってこの行事が行われていると実感しました。ご協力くださった地域の皆さま、保護者の皆さま、本当にありがとうございました。

さて、「凧あげ」はいつ頃から行われているのか気になり、調べてみました。世界の「凧あげ」の起源は古代中国で始まったと言われています。当時は軍事的な目的で使用されたと言われていて、敵地を偵察したり、戦略的なメッセージを伝えたりするために凧が使われていたそうです。その後、「凧あげ」はアジア全体に広まり、さまざまな文化や伝統の中で使われるようになり、日本には平安時代にはすでに存在していて貴族の中で楽しめる風流とされていたようです。時代が進むにつれ、しだいに庶民にも広がり、江戸時代にはとても人気があって大ブームとなり、子どもの凧あげを禁止する町触（まちぶ）れが出されたことが、資料として残っているほどです。現在、日本の「凧あげ」には多くの意味が込められています。年始に邪気を払うためや祈りや願いを天に届けるという意味、子どもの健康を祈るためなどにもあげられています。

日本の伝統文化である「凧あげ」の目的が時代ごとにさまざまな形で変容してきていることに驚きました。本校の「凧づくり・凧あげ」大会も創立当時に行われていた形とは大きく変化してきていることでしょう。それぞれの時代や状況に合わせて形を変えながら、東侯野小学校の伝統を受け継いでいけるとよいと思います。